

歩く旅と健康観 江戸時代のお伊勢参りから

◎太田 光俊¹⁾
三重県総合博物館 学芸員¹⁾

<ねらい>

現代そして江戸時代のお伊勢参りについて考えてみませんか？ これまで伊勢参りをしたことがある方、これからお伊勢参りに向かう方、昔のお伊勢参りを知ること、これまでと違ったお伊勢参りが見えてくるかもしれません。

○お話の前提

- ・江戸時代の健康や徒歩に関するイメージを、三重県で江戸時代の伊勢参りの研究をしているものとしてどう考えるか
- ・伊勢参りは歩く旅だったという当たり前のことからわかること
- ・伊勢参りの旅と生・老・病・死

○江戸時代の歩く旅の実態

- ・歩きの実態、旅のスピード、道中の養生
- ・歩くことで盛り上がる伊勢参りの道中
- ・ドア・ツー・ドアの旅とは異なる楽しみ方、盛り上がり方
- ・肉体を使う旅、長期間の旅であるからその中で生・老・病・死を考える

○生・老

- ・一生の中での伊勢参りの位置づけ
- ・無断で伊勢参りしたという抜け参りとは
- ・母子で抜け参りをする（産後・育児の中で伊勢参り）
- ・子どもの抜け参り（家出？）

○病・死

- ・道中で病になる可能性、死ぬ可能性（金欠、野垂死、それらに対する施行の実態）
- ・病気が治る伊勢参り！？（腰・目？）